

5 重点的に取り組む主な経営課題

様式5

【経営課題1:未来に向けて輝くまちづくり】

○経営課題の評価結果の総括

内容	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
住之江区がもつ豊かな資源を活用し、まちが活気を取り戻し、若い世代や子どもを含むすべての区民の皆さんが明るい未来に向けての夢を持てるまちをつくる。	課題の判明した取組については事業再構築を行いながら、新たな社会システムの構築や学力向上と教育環境の整備など、明るい未来に向けての夢を持てるまちに向けた取組を順調に進めている。

[戦略1-1:住之江区「夢・未来創造」プロジェクトの推進]

(1)戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
「ハートフルマネーすみのえ」事業の立ち上げを行い、市民の参加協力も順調に推移しており、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
ア:有効であり、継続して推進
イ:有効でないため、戦略を見直す

(2)戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに、区民モニターアンケートにて、「住之江区が活性化してきた」と感じる区民の割合50%以上	未測定※平成26年度より計測	-	B	B
・平成27年度までに、地域まちづくり活動への参加人数1,200人以上	未測定	-	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
区民の皆さんが、未来を語り合い、明るい「夢」を創造する場をつくる。さらに、創造した夢のひとつひとつについて実行委員会などを立ち上げ、それぞれの夢の実現に向けて活動していただく。その活動について、交流会や発表会なども開催し、多くの区民の皆さんが明るい未来に向け夢を共有することで、まちの活気を取りもどす。 また、市民ファンド等を活用して、区内のさまざまな課題を解決し、資金が循環する社会システムを構築する。	地域課題解決に向けた取組について語り合う「地域編集塾」、ラウンドテーブルである「シャベリバ」や南港咲洲在住の若手区民による意見交換会など、地域の様々な場所で、区民の皆さんによるまちの活気を取り戻すための議論が活発に行われていることに加え、「ハートフルマネーすみのえ」事業を立ち上げ、運用を開始したことで、資金が循環する社会システムの構築もできたため、戦略は順調に推移している。			C

(※2)アウトカムの達成状況
A:順調
B:順調でない

(※3)戦略の進捗状況
a:順調
b:順調でない
c:中間アウトカム未設定(未測定)

(3)具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組1-1-1:夢を創造し実現にむけた取り組み】 各話し合いの場から出された意見をもとに、活動を開始する。 市民ファンド等を活用し、区内の課題解決のための、資金が循環する事業を立ち上げる。	市民ファンド等を活用した事業立ち上げ(1件) 【撤退基準】 市民ファンド等への区民の方の参加協力が延べ1,800件以上得られなければ、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・市民ファンドを活用した「ハートフルマネーすみのえ」事業を立ち上げ、運用を開始。 ・市民ファンドへの参加協力 4,500件	① (i)	-	・区民の市民ファンドへの参加、参加協力店舗の双方をさらに増していくことが必要	・広報媒体の活用やイベントなどでの周知など、積極的なPRを行い、カード利用者増を図るとともに、新規参加協力店舗の開拓を行う。 【26年度運営方針案に反映】	2-(1)-ウ

(※4)具体的取組の目標達成状況

- ①:目標達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ②:目標未達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ③:撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性

- :有効
- ×:有効でないため見直す
- :中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略1-2:住之江ブランド「suminoe アート・ハート・ビート」(仮称)の推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、「suminoe アート・ハート・ビート」推進の各取組が目標を達成し、今後のブランド化戦略に伴いアウトカムの達成が見込まれるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに区民アンケートで、地域に愛着を持っている 90%	73%	86%	B	B
・平成25年度区民モニターアンケートにて、「住之江=アートのまち」の認知度調査をし、成果目標における基準値とする。(「suminoe アート・ハート・ビート」(仮称)の認知度)	14%	-	-	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
アートによりまちの魅力を発掘し、区民の地域への愛着度向上をめざす。「アート」をまちの活性化の旗印として掲げて、人々に感動を与えるもの・創造性をかき立てるものをアートと位置づけて、アーティスト・地域・企業・住民等との交流を活性化し、地域への愛情・誇りに高めるとともに、区内外へ住之江の魅力として発信する。 「suminoe アート・ハート・ビート(仮称)」を合言葉に、住之江のブランド化へとつなげる。	「suminoe アート・ハート・ビート」(仮称)の各取組みにおいて、参加者アンケートを実施し、概ね肯定的な意見を得たため、戦略は順調に進捗していると認識している。			C

(※2) アウトカムの達成状況

A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況

a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組1-2-1:近代化産業遺産を活かした「suminoe アート・ハート・ビート」(仮称)の推進】 名村造船所大阪工場跡地を媒介に、アーティストや地域住民が企画から実施まで主体的に活動するまちづくりアートイベントを実施する。	アーティストと地域との協働によるまちづくりアートイベントの開催 【撤退基準】 名村造船所大阪工場跡地の認知度が24年度の数値を上回らなければ事業を廃止する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・「すみのえアート・ビート2013」開催(平成25年10月19・20日・名村造船所大阪工場跡地) 参加者 5,500名 ・認知度 59%(H24:53%) 区民モニター調査より	① (i)	○	・一過性でなく、持続可能なイベントの開催形態を検討する必要がある。	・地域・企業・NPO等からなる実行委員会を立ち上げ、イベントを企画・開催する。 【26年度運営方針案に反映】	1-(1)
【具体的取組1-2-2:歴史的エリア・建造物を活かした「suminoe アート・ハート・ビート」(仮称)の推進】 住吉大社・旧紀州街道筋に広がる歴史的建造物を活かしたまちづくりアートイベントを開催する。	まちづくりアートイベントの開催 【撤退基準】 参加者アンケートにおいて、満足度が50%未満であれば事業を廃止する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・「コスひな祭deおもてなし」開催(平成26年3月2日・加賀屋新田会所跡) 参加者 350名 ・参加者アンケートでの満足度 67%	① (i)	-	・対外的認知度の向上に向けた内容を検討する必要がある。	・コスプレを核としたクールジャパンを推進するようなイベントを開催し、対外的認知度の向上を図る。 【26年度運営方針案に反映】	
【具体的取組1-2-3:地域経済の活性化に向けた「suminoe アート・ハート・ビート」(仮称)の推進】 【地域経済活力創造事業】 区役所と地域(商店街、ものづくり企業、商工団体、住民、NPO等)が協働事業に取り組み、地域のブランドづくりや地域の魅力を発掘・発信を行うため、イベントを開催する。	区役所と地域が協働したイベント開催(1回) 【撤退基準】 25年度事業において、参加者の満足度(アンケート調査)が60%以下であれば事業を廃止(再構築)する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・「すみのえCJ」パンチ2013開催(平成25年11月4日ATC海辺のステージ) 来場者数 のべ約3,000人 ・来場者アンケートで、よかった、まあよかったと答えた方 86.4%	① (i)	○	・経済戦略局予算配布事業としての制約があった。	・H26年度より、区事業として、予算計上を行った。 【26年度運営方針案に反映】	経済局決定権移譲事業

(※4) 具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
- ×: 有効でないため見直す
- : 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略1-3:「すみのえ太陽の子」プロジェクトの推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、取組を進める中で、現在の取組ではアウトカムの達成が困難であることが判明したため、戦略はアウトカムに対して有効でない。	イ	(課題) ・子どもたちがすくすく育つまちづくりを進めるための収益確保に関する戦略を再構築する必要がある。 (対応方向) ・今まで活用していなかった資源を活用した事業を実施し、子どもの学力向上のための財源として活用するなど、子どもたちがすくすく育つまちづくりのための戦略の再構築を行う。

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
 ア: 有効であり、継続して推進
 イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに、「住之江区では、未来づくりに向けた取り組みが行われている」区民の割合50%以上	未測定	-	B	B
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
区内の広大な土地や海上を利用し、太陽光発電事業などを立ち上げ、そこからの収益により、子どもの学力向上などへの投資を継続的に行うなど、子どもたちがすくすく育つまちづくりを進める。				b

(※2) アウトカムの達成状況
 A: 順調
 B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
 a: 順調
 b: 順調でない
 c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組1-3-1:「すみのえ太陽の子」プロジェクト事業スキームの開発】 太陽光発電事業を立ち上げ収益が得られるようにするための問題点や対応方法を検討するため、平成24年度に引き続き、太陽光発電事業の調査研究を行う。 その結果を踏まえて、事業スキームを作成する。	事業スキームの作成 【撤退基準】 太陽光発電事業立ち上げについて、有益な情報を収集出来なければ、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・他自治体等の先進事例を参考にし情報収集を行い、事業スキームを作成した。	① (i)	×	・事業スキームを作成し、実現に向けた調整を続けたが、収益性等の課題が判明した。	・事業を再構築する。 【平成26年度運営方針案に反映】	2-(1)-ウ

(※4) 具体的取組の目標達成状況
 ①: 目標達成
 (i) 取組は予定どおり実施
 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
 ②: 目標未達成
 (i) 取組は予定どおり実施
 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
 ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性
 ○: 有効
 ×: 有効でないため見直す
 -: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略1-4: 学力向上と教育環境の整備]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、学力向上の取り組みや教育環境の整備について、目標を達成したことで、英語学習への意欲や教育環境がそれぞれ向上したという結果が出ており、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成25年度までに、「英語学習に意欲をもつきっかけになった」と考える実用英語技能検定受験者の割合50%以上	37.83% ※受験者アンケート全校平均。学校によって数値に大きく開きがある。	-	B	A
・平成25年度までに、「教育環境が良くなってきた」と回答する学校長の割合80%以上	100%	-	A	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
海外交流に有利な住之江区にふさわしい国際感覚と語学力を向上させ、将来への夢を持った子どもたちを育てるとともに、学校協議会の活発化などで地域の教育力を高め、学校と一体となって教育体制を充実する。 また、こどもや保護者等の相談を受けるスクールカウンセラーの拡充を図り、発達障がいの子どものサポートするボランティアを配置する。				a

(※2) アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組1-4-1: 学力向上の取り組み】 区内それぞれの市立中学校で、実用英語技能検定5級受験の取り組みを実施する。	「英語学習に対する意欲向上に効果が見られる」と考える学校長の割合80% 【撤退基準】 「英語学習に対する意欲向上に効果が見られる」と考える学校長の割合が50%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 100% 【取組実績】 ・実用英語技能検定受験実施: 住之江区内全市立中学校(7校)	① (i)	○	・一律に5級を受験しているため、生徒の英語習熟度によって、どこまで意欲向上につながっているかが不明である。	・受験級を4もしくは5級とし、受験者にて選択可能とする。 【26年度運営方針案に反映】	平成25年度新規事業 2-(1)-ウ
【具体的取組1-4-2: 教育環境の整備】 生徒・保護者・教諭の相談に対応する、スクールカウンセラーの人員増(1人)を図る。 小・中学校に発達障がいサポートボランティアを新たに配置する。	発達障がいのある児童・生徒に対するサポート体制が充実したと感じる学校長の割合 80% 【撤退基準】 上記の割合が50%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 100% 【取組実績】 ・スクールカウンセラーの人員増(1人) ・小・中学校に発達障がいサポートボランティアを新たに配置	① (i)	○	・各学校からのニーズが高いため、今後も継続的な実施が必要	・平成26年度も継続実施	2-(1)-ウ

(※4) 具体的取組の目標達成状況
①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性
○: 有効
×: 有効でないため見直す
-: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略1-5:住之江「子育てしやすい区」プロジェクトの推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、子育て支援策に関しては取組レベルでの目標を達成したが、虐待防止サポーターは目標達成できなかった。虐待防止サポーターについては対象を広げることで、目標達成が見込まれ、アウトカムの実現に寄与すると想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
ア:有効であり、継続して推進
イ:有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成26年度までに「安心して子育てができる」と感じる区民の割合60%以上	43.7%	65.2%	B	B
・平成27年度までに「子育てがしやすくなった」と感じる区民の割合50%以上	未測定 ※平成26年度より計測	—	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
保育ママ制度の活用等により、保育所待機児童の解消を図るなど、子育てのしやすいまちとする。 子育て支援室が、子育てに関する総合的な相談や支援を行うとともに、必要に応じて適切な関係機関と連携するなど、安全・安心な子育て支援体制の整備を図る。 区民の方を対象に「虐待防止サポーター(仮称)」を養成し、児童・高齢者・障がい者虐待防止に力を発揮する事ができる仕組みを構築する。				b

(※2)アウトカムの達成状況

A:順調
B:順調でない

(※3)戦略の進捗状況

a:順調
b:順調でない
c:中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組1-5-1:子育て支援室と地域との協働による子育て支援】 保育士派遣による乳幼児健診や子育てサロン等での子育て相談実施(40回) 全地域の子育てサロン等へ専門職(保育士)を派遣し、子育てに関する相談だけでなく、子育てサロン等に対して、メニューづくりや開催についてのアドバイス等を行う。 児童や家庭が抱える問題の解決と、家庭における児童の福祉向上を図ることを目的に、家庭児童相談員を増員する(2⇒3人)	「子育てサロンの運営に有効である」とする子育てサロン等運営者の割合を80%以上とする。 【撤退基準】 子育てサロン等から保育士の派遣希望が50%未満になれば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・94.7% 【取組実績】 ・子育てサロン等への保育士派遣 50回 ・各子育てサロン運営者で構成する子育てサロン連絡会の実施(5月) ・家庭児童相談員を1名増員	① (i)	○	・保育士派遣要望は多かったものの、子育てサロンの企画運営段階への保育士の参画については子育てサロン運営者のニーズに合致していなかった。	・子育てサロン連絡会等の開催により子育てサロン運営者のニーズを把握しながら、子育てサロンの一層の活性化を支援していく。 【26年度運営方針案に反映】	2-(6)
【具体的取組1-5-2:保育サービスの充実】 保育ママ事業を保育所待機児童の解消に結びつけるため、保育を必要とする保護者に周知し、待機児童が多く見込まれる地域への保育ママ事業の誘致説明会を開催する。 年度途中の入所枠拡充を図り、保育所に働きかける。 また、一時保育・休日保育・私立幼稚園での預かり保育や認可外保育施設などについて情報提供を行う。	保育ママ事業を誘致、開設する。(1ヶ所) 【撤退基準】 保育ママ事業の開設がなければ、当該事業を再構築する。 年度途中の入所枠拡充可能な保育所確保(1ヶ所) 【撤退基準】 年度途中、入所枠拡充する保育所がなければ、当該事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・保育ママ事業を誘致、開設(1ヶ所) ・年度途中の入所枠拡充可能な保育所確保(2ヶ所) ・年度途中の入所枠拡充にかかる働きかけ 19ヶ所	① (i)	—	・開設した保育ママ事業所が定員に達していない。	・保育を必要とする保護者に対し、保育ママ事業所の活用をPRするとともに、待機児童の多い地域での保育ママ事業所新規開設を支援する。 【26年度運営方針案に反映】	
【具体的取組1-5-3:区をあげた虐待防止の取組み推進】 虐待の早期発見・防止のため、区民の参加協力を募り、虐待に対する正確な知識を持つ「虐待防止サポーター(仮称)」を地域で養成する。 「虐待防止サポーター(仮称)」養成講座開催(14地域毎で年間5回) 「虐待防止サポーター(仮称)」を養成するリーダー(50人)、コーディネーター(14人)を養成 区内14地域に「虐待防止サポーター(仮称)」の活動拠点を設置しコーディネーター(連絡調整役)の配置 児童虐待については、「虐待防止サポーター(仮称)」からの事案も含めて、「要保護児童対策地域協議会」で総合的な把握・進捗管理を行う。 「要保護児童対策地域協議会」の実務者会議を毎月1回定例開催・個別ケース検討会議を随時開催	「虐待防止サポーター(仮称)」14地域×各100名=計1,400名養成 【撤退基準】 サポーター数が目標の50%に届かなければ、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・虐待防止サポーター 943名養成 【取組実績】 ・虐待防止サポーター養成講座46回開催 ・リーダー養成講座4回開催、75名養成 ・コーディネーター14名養成 ・要保護児童対策協議会実務者会議14回(2回は全件振り返り) ・要保護児童対策協議会個別ケース会議 60回	② (i)	○	・虐待防止サポーターについて、開始時期や地域との調整が難航し、目標数値を下回った。	・地域の区民のみならず、ライフライン事業者や企業・NPOなどにも積極的に声をかけ、虐待防止サポーター数の増を図り、区をあげた虐待防止の取組みにつなげていく。 【26年度運営方針案に反映】	1-(2)-イ 2-(1)-ウ 2-(3)-イ

(※4)具体的取組の目標達成状況

- ①:目標達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ②:目標未達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ③:撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性

- :有効
- ×:有効でないため見直す
- :中間アウトカム未設定(未測定)

5 重点的に取り組む主な経営課題

様式5

【経営課題2:大きな公共を担う活力ある地域社会づくり】

○経営課題の評価結果の総括

内容	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
校区等地域を単位として、あらゆる年代・各種地域団体や企業・NPO等、多様な主体が、地域社会の将来像を共有しながら、それぞれの特性を発揮し、さまざまな地域課題に取り組む自律的な地域運営を支援する。	中間支援組織との連携による地域支援やきずなステーションの活用による人材とニーズのマッチングなどが進められており、自立的な地域運営に向けた支援を進めている。

[戦略2-1:市民による地域運営の活性化]

(1)戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、社会的ビジネス化対象業務として、広報紙ポスティング事業を地域見守りという課題解決に向けた事業に再構築を行うとともに、地域編集塾を通じたマルチパートナーシップ形成の動きも進んでいることから、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
ア:有効であり、継続して推進
イ:有効でないため、戦略を見直す

(2)戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに、地域で「まちづくり活動への意識が高まり、自主的な取組みが進んでいる」と感じる住民の割合50%以上	未測定 ※平成26年度より計測	-	B	A
・平成26年度までに、多様な主体による事務事業の社会的ビジネス化 1件	1件 ※H26.4より実施	-	A	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
地域課題や資源など地域の実情を最もよく知っている住民等が中心となって担うことにより、マルチパートナーシップによる取組みを継承・発展させ、大きな公共を担う活力ある地域社会作りを推進する。				b

(※2)アウトカムの達成状況
A:順調
B:順調でない

(※3)戦略の進捗状況
a:順調
b:順調でない
c:中間アウトカム未設定(未測定)

(3)具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組2-1-1:地域運営にかかる支援】 区内全地域での地域活動協議会の設立を受け、活動支援と一括補助金の交付により、自主的で特色のある地域運営を進めるとともに、より一層の民主的で開かれた組織運営と会計の透明性の確保が重要であることから、中間支援組織とともに組織運営や会計運営などに関する支援を行う。 地域活動協議会において「地域編集塾」を開催し、地域課題を区民の皆さんが自主的に解決できる体制づくりを中間支援組織及び区役所地域担当職員が支援する。	・各地域活動協議会の一括補助金の支出計画について、区ホームページ等で公表する。 ・地域活動協議会で「地域編集塾」を開催(全14地域中7地域) 【撤退基準】 一括補助金の申請が予算に対して、7割を切れば事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・一括補助金の支出計画を区のホームページに公表(11月) ・一括補助金の申請額は予算額どおり全地域申請済 ・敷津浦地域(5回)、平林地域(3回)、加賀屋東地域(2回)、住之江地域(1回)の計4地域で「地域編集塾」開催	② (i)	-	・「地域編集塾」開催に向けた意識を高めることができなかったことや、日程・場所等の調整が難航したため、目標開催数に達しなかった。	・各地域活動協議会同士の活発な情報交換を行うことを目的とした「情報交換会」の開催に向けた取り組みを中間支援組織とともに支援する。その際、「地域編集塾」の活動報告も行っていただき、その魅力をPRすることで開催地域増へとつなげる。 【26年度運営方針に反映済】	1-(2)-ア 1-(4)-ア 1-(6) 2-(3)-イ
【具体的取組2-1-2:社会的ビジネス化】 社会的ビジネス化に向け条件等を検討する。	社会的ビジネス化に向けた条件等の検討・事業着手 【撤退基準】 社会的ビジネス化対象事業について、条件等の検討が出来なければ、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・地域見守りという課題解消に向けて、区広報紙ポスティング業務に配布先宅の見守り業務を付加し、社会的ビジネス化を行った。	① (i)	-	・対象業務について、速やかに実施する必要がある。	・平成26年度に実施する。 【26年度運営方針に反映済】	1-(5)-イ

(※4)具体的取組の目標達成状況
①:目標達成
(i)取組は予定どおり実施
(ii)取組を予定どおり実施しなかった
②:目標未達成
(i)取組は予定どおり実施
(ii)取組を予定どおり実施しなかった
③:撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性
○:有効
×:有効でないため見直す
-:中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略2-2:「若い世代の地域まちづくり拡大」プロジェクトの推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
ラウンドテーブルから多くのつながりが生まれた結果、それを通じた様々な取組が行われており、今後のアウトカムの実現に寄与すると想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに、区民モニターアンケートにおいて、「住之江区が活性化してきた」と感じる若い世代の区民の割合50%以上	未測定 ※平成26年度より計測	-	B	B
・平成27年度までに、若い世代の方の地域まちづくり活動への参加人数1,200人以上	577人	-	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
ラウンドテーブルなどの場を用い、幅広い世代に地域まちづくり活動へ参加してもらうことで、人のつながりや各団体間の連携をコーディネートする。				a

(※2) アウトカムの達成状況

A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況

a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組2-2-1: 多様な主体がつながるラウンドテーブル開催を支援】 多くの区民の方、特に若い世代の方に「つながり」や「きずな」の大切さを認識していただくとともに、地域活動への参加をめざして、ラウンドテーブルなどの開催支援を行う。	ラウンドテーブルの参加者人数720人以上 【撤退基準】 参加者人数が前年度を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ラウンドテーブル参加者人数 770人 【取組実績】 ・現在5ヶ所で開催中 ・シャベリバで生まれた参加者同士の「つながり」から、次のようなイベントや取組みが生まれた。 「ガーデンLIVEinすみのえ」開催 住之江をイメージした曲、「LaLaLaすみのえ」が生まれ、シャベリバ参加者のデザイナーがCDジャケットをデザイン 区役所でランチタイムコンサート開催 「コスモすみのえ夏フェスタ」開催 南港チャンネルクリーンプロジェクト結成 「AIR事業による招聘アーティスト『ヨルン・ビシュルー』との交流会」開催 「クラウドファンディング勉強会」開催 「きたいちスマイルアートフェス」開催	① (i)	○	・メンバーの固定化 ・若手参加者の誘導	・若手や新規参加者をひきつける仕掛けの検討	1-(1) 1-(2)-イ 2-(1)-ウ 2-(2)-ア

(※4) 具体的取組の目標達成状況

①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

○: 有効
×: 有効でないため見直す
-: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略2-3:多様な協働(パートナーシップ)の推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、自主性を尊重した市民活動の促進の取組における目標も達成できており、アウトカムについては今後の取組の進捗により順調に推移することが見込まれるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
ア:有効であり、継続して推進
イ:有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
平成26年度までに区民モニターアンケートにて、「地域のまちづくりに関する活動が地域団体やNPO・企業などさまざまな活動の連携・協働により進められている」区民の割合60%以上	18.8%	-	B	B
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
NPOの設立支援を行うとともに、NPO・企業等さまざまな活動主体が情報共有するための交流の場を構築する。				a

(※2)アウトカムの達成状況
A:順調
B:順調でない

(※3)戦略の進捗状況
a:順調
b:順調でない
c:中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組2-3-1:自主性を尊重した市民活動の促進】 来庁者・NPO団体・各種地域団体等が情報交換などを行える交流の場を整備する。 インターネット・SNSを活用するなどにより、さまざまな活動主体が参加するネットワークづくりを進めるとともに、地域公共人材についての情報提供を行うことで、人材のマッチングを図る。	情報交換などを行える交流の場 登録団体 12団体 利用者総数 1,100人 【撤退基準】 利用申込がなければ、事業を撤退する。	【目標達成状況】 ・登録団体 26団体 ・利用者総数 1,995人 【取組実績】 ・8月から区役所地下にまちづくりの拠点「きずなステーション」を開設した。	① (i)	○	・個別のつながりは生まれつつあるが、ネットワーク化までは至っていない。	・「きずなステーション」での公共人材バンクの登録や、登録団体の情報共有ができる工夫し、発信していく。 【26年度運営方針に反映済】	1-(1) 1-(2)-イ 1-(3)-ア 1-(3)-イ 1-(5)-ア 2-(1)-ウ

(※4)具体的取組の目標達成状況
①:目標達成
(i)取組は予定どおり実施
(ii)取組を予定どおり実施しなかった
②:目標未達成
(i)取組は予定どおり実施
(ii)取組を予定どおり実施しなかった
③:撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性
○:有効
×:有効でないため見直す
-:中間アウトカム未設定(未測定)

5 重点的に取り組む主な経営課題

様式5

【経営課題3:安全・安心なまちづくり】

○経営課題の評価結果の総括

内容	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
区内企業・福祉事業者などの協力で避難体制を充実させるとともに、区民に防災に関する正しい情報を効果的に提供し、とりわけ中学生からの防災教育を充実するなど、地域全体の防災力を向上させる。 また、引き続き犯罪を未然に防ぐ取り組みや放置自転車対策に取り組むことで、安全に暮らせるまちをつくる。	わがまち防災プランの策定や「まちを守る中学生」プロジェクトの推進などにより、地域防災力向上に向けた取組は順調に進んでいる。 防犯については、取組に関して地域住民より評価を得ているものの、犯罪発生件数が増となったため、安全に暮らせるまちとするための取組を強化していく必要がある。

[戦略3-1:「わがまち防災プラン」策定プロジェクトの推進]

(1)戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果(※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、津波避難ビル協定書や福祉避難所指定協定などの締結については、目標を下回ったものの、その他の防災力向上の取組は目標を達成しており、区民主体への防災訓練の実施などの区民の防災力向上に向けた取組を進めていくことで、アウトカムの実現に寄与すると想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
ア:有効であり、継続して推進
イ:有効でないため、戦略を見直す

(2)戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成26年度までに区民モニターアンケートにて、「災害に備えて区役所が適切に対応している」と感じる区民の割合80%以上	未測定※防災訓練参加者アンケート結果 83%	—	B	B
・平成26年度までに区民モニターアンケートにて、「区役所で、防災など危機事象ごとの計画やマニュアルが作成されていることを知っている」区民の割合80%以上	未測定※平成26年度に計測	—	B	
・平成26年度までに区民モニターアンケートにて、「災害時に自分がまず、何をすればよいのかを知っている」区民の割合80%以上	未測定※防災訓練参加者アンケート結果 76%	—	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果(※3)
港湾地区、大和川沿い、旧市街といった各地域の特性を考慮した防災プランの策定を促進し、いざというときのために防災マニュアルなどを作成する。区民主体で地域事情に沿った防災訓練を行う。				b

(※2)アウトカムの達成状況
A:順調
B:順調でない

(※3)戦略の進捗状況
a:順調
b:順調でない
c:中間アウトカム未設定(未測定)

(3)具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果(※4)	戦略に対する有効性(※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組3-1-1:地域および職員の防災力向上】 区内全連合町会において、災害時に備えた事前学習会やワークショップを開催するなど、自主防災体制確立のための支援を行い、住民が主体となって地域の実情にあった防災訓練を実施する。 避難所開設及び運営訓練実施(14ヶ所) 夜間の津波避難訓練を実施(1ヶ所) ITを活用した職員訓練を実施(2回) 職員を対象に、避難所に赴く地域研修を実施 Twitterを活用しリアルタイムに情報発信する。 (気象警報・注意報等)	各訓練参加者に対し防災アンケートを実施し、「訓練に参加することが有意義である」と感じる割合が80%以上 【撤退基準】 訓練への参加者アンケートにおいて、「訓練に参加することが有意義である」と感じる割合が半数以下になれば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・83% 【取組実績】 ・14ヶ所で防災訓練を実施 ・1ヶ所で夜間津波避難訓練を実施 ・ITを活用した職員訓練を実施(3回) ・職員を対象に、避難所に赴く地域研修を実施 ・Twitterを活用し気象警報等をリアルタイムに情報発信	① (i)	○	・事前学習会等での説明不足もあり、安否確認方法や避難誘導などの訓練内容が正確に理解されていなかった。	・地域別防災プランを活用し、訓練を行う。 【26年度運営方針に反映済】	2-(3)-イ 2-(4)
【具体的取組3-1-2:地域防災プランの作成】 区の防災・減災計画(行動マニュアル)を基に、区内各地域の特性を考慮した防災プラン作成のため、専門家と地域とをコーディネートする。	地域別の防災プラン作成 全14連合 【撤退基準】 平成25年度完了予定	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・2月末までに全14地域で防災プランを作成	① (i)	○	—	—	2-(4)
【具体的取組3-1-3:津波避難ビル協定締結の推進】 津波避難ビルの協定を締結し、災害時の区民の受け入れ態勢を図る。	津波避難ビルの協定締結 区内28ヶ所 【撤退基準】 協定締結が14ヶ所未満であれば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・区内20ヶ所 【取組実績】 ・協定締結に向け協議を行った施設 35ヶ所	② (i)	○	・避難ビル指定に向けた取組は理解を得られつつあるが、行政単独の依頼の場合、指定に至らないことがある。	・地域住民と連携を深め、ビル所有者の理解を得る。 【26年度運営方針に反映済】	2-(4)
【具体的取組3-1-4:福祉避難所指定協定の推進】 老人福祉施設、障がい者福祉施設を福祉避難所として指定する協定を締結し、災害時における受け入れについて具体的な協議を進める。	老人福祉施設や障がい者福祉施設との協定締結 6施設 【撤退基準】 協定締結が3ヶ所未満であれば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・0施設 【取組実績】 ・2法人5施設と協議を実施	③	×	・施設の受入れ体制等の防災マニュアルが未作成であり、そのマニュアル作成にあたっての協議が進まなかった。	・住民参加のもと施設と意見交換を行い、福祉避難所指定に向け施設の防災マニュアル作成から協議を行うなど事業を再構築する。 【26年度運営方針に反映済】	2-(4)

(※4)具体的取組の目標達成状況

- ①:目標達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ②:目標未達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ③:撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性

- :有効
- ×:有効でないため見直す
- :中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略3-2:「まちを守る中学生」プロジェクトの推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、中学生への防災教育を推進しており、取組レベルでの目標も達成しているため、アウトカムの実現に寄与すると想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに、「災害時に自分がかまらず、何をすればよいのかを知っている」中学生の割合80%以上	未測定 ※中学1年生対象の出前講座でのアンケートで「学習内容が理解できたという生徒」91%	—	B	B
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
防災の新たな担い手となる中学生を対象に防災訓練を行い、いざというときに災害に立ち向える若い世代の育成を図る。				a

(※2) アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組3-2-1: 中学生を対象とした防災教育の実施】 中学生(1年生)を対象とした防災出前講座を実施する。(7校) 中学生(2年生)を対象とした防災専門家による研修会(計3回)を実施する。(2校)	【チャレンジ目標】 学校アンケートにより、防災出前講座や防災研修会の実施により、「中学生の防災意識の向上が図れた」との学校の評価 80%以上 【撤退基準】 学校アンケートにより、防災出前講座や防災研修会の実施により、「中学生の防災意識の向上が図れた」との学校の評価が50%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・88% 【取組実績】 ・中学生(1年生)を対象とした防災出前講座を6校で実施 ・中学生(2年生)を対象とした防災専門家による研修会を1校で実施	① (ii)	○	・日程調整時期が遅くなったため、出前講座、学習会ともに当初想定どおりの実施に至らなかった。	・学校のスケジュールも踏まえながら、早い段階から日程調整を行う。	2-(1)-ウ 2-(4)

(※4) 具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
- ×: 有効でないため見直す
- : 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略3-3: 区民の安全・安心を担う総合拠点としての区役所づくり]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、街頭犯罪発生件数や放置自転車の減少に向けた取り組みを強化し、取組レベルにおいては目標を達成していることから、アウトカムの実現に寄与すると想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成25年度街頭犯罪発生件数: 平成24年度比10%減	34.1%増	—	B	B
・放置自転車台数を半数以下にする(H23年度⇒H25年度目標数値: 地下鉄「住之江公園」駅89台→40台)	41台	57台	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
職員がまちに出向いて、街頭犯罪の生じる恐れの高い場所や子ども・高齢者の交通事故が発生しやすい危険な場所など「まちの危ないポイント」について、区民の皆さんの意見や情報を直接聞き、安全・安心なまちづくり対策に活かす。 また、放置自転車対策にも、引き続き取り組む。	「まちの危ないポイント」の情報を活用した「まちの危ないかがい隊」プロジェクトでの取組は地域アンケートで肯定的な評価をいただいている。また、サイクルサポーターの配置やマナー教室での啓発など、放置自転車対策の取組により、放置自転車台数が減少していることから、戦略は順調に進捗していると認識している。			C

(※2) アウトカムの達成状況

A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況

a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【3-3-1: 「まちの危ないかがい隊」プロジェクトの推進】 平成24年度実施の防犯アンケート(「まちの危ないポイント」アンケート)で判明した、危険なポイントを青色防犯パトロールの巡回エリアに指定し、パトロールを実施(週5日)。 全ての巡回パトロール時において、区民の皆さんからいただいたご意見等を関係局へ引き継ぐ等、インターフェイス機能の強化を図る。 自転車ワイヤーロック及びひったくり防止カバーの取付けキャンペーン実施(年間20回以上・自転車ワイヤーロック1000件以上・ひったくり防止カバー1000件以上) 職員対象(1/3)の地域研修により、地域に関する情報を収集	青色防犯パトロールやひったくり防止カバーの普及など、防犯活動についての地域アンケートにて、活動について肯定的な評価70% 【撤退基準】 防犯活動についての地域アンケートにて、活動について肯定的な評価が50%を下回れば、事業を再構築する。 職員研修参加者アンケートにて、「地域を知るための有意義な研修である」と回答する割合70% 【撤退基準】 職員研修参加者アンケートにて、「地域を知るための有意義な研修である」と回答する割合が50%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・地域アンケート 79% ・職員アンケート 98% 【取組実績】 ・自転車ワイヤーロック・ひったくり防止カバー取付けキャンペーン(35回実施、自転車ワイヤーロック3,320個・ひったくり防止カバー2,770個の取付と配付) ・職員研修73名受講	① (i)	○	・街頭犯罪7項目中自転車盗が843件の発生で前年比プラス310件と大幅に増加している。	・自転車盗難対策に取組む。 【26年度運営方針に反映済】	2-(1)-ウ 2-(2)-ア 2-(4)
【具体的取組3-3-2: 放置自転車対策「Do!プラン」】 地下鉄「玉出」駅・「住之江公園」駅でサイクルサポーターの活動を継続する。 子ども向けの自転車マナー教室など、啓発活動を新たに展開する。 地元高校と連携し若者をターゲットにした啓発活動を展開する。	重点地域(2駅)での継続した放置禁止の呼びかけや、子ども向け教室の実施など啓発の充実を図る。 【撤退基準】 放置自転車台数が半数以下になれば、事業手法を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・地下鉄「玉出」駅、「住之江公園」駅でのサイクルサポーターの活動実施 ・区民まつりで、自転車シミュレーターによるマナー教室を開催	① (i)	—	・放置自転車問題に対する住民意識のさらなる醸成が必要	・地域住民が参加した啓発活動などの取り組みを行う。	

(※4) 具体的取組の目標達成状況

①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

○: 有効
×: 有効でないため見直す
—: 中間アウトカム未設定(未測定)

5 重点的に取り組む主な経営課題

様式5

【経営課題4:幅広い世代が暮らしやすいまちづくり】

○経営課題の評価結果の総括

内容	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
子ども・高齢者・障がい者を含むすべての世代の区民が、地域で支えあうまちをつくる。	地域交通の促進において、取組レベルでの再構築を行う必要が生じたものの、概ね戦略の進捗は順調であり、すべての世代の区民が地域で支えあうまちに向けた取組は進んでいる。

[戦略4-1:コミュニティビジネスによる地域交通の促進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、コミュニティビジネスによる地域交通手段の立ち上げには至らなかったが、取組レベルでの事業再構築を行うことで、アウトカムの実現に寄与すると想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
 ア:有効であり、継続して推進
 イ:有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・コミュニティビジネスによる地域交通手段の立上げ 3団体	0団体	-	B	B
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
高齢者・障がい者等の外出には移動手段が重要であり、こうした支援を必要としている人々の移動手段を確保するため、NPO等との協働による新しい事業を展開させる。				b

(※2)アウトカムの達成状況
 A:順調
 B:順調でない

(※3)戦略の進捗状況
 a:順調
 b:順調でない
 c:中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組4-1-1:「コミュニティビジネスによる地域交通」の育成】 福祉有償運送立上げ及び初期運営に対する補助制度を構築する。 NPO等による車両運行立上げに対する補助制度を構築する。 地域交通手段の事業立上げに向けた啓発・相談支援事業を実施する。	福祉的移動手段の運行開始 年間利用者4,300人 【撤退基準】 地域交通手段の立ち上げ団体がいない場合は、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・福祉的交通手段 7月1日 福祉バス運行開始 8月・9月・10月・2月でルート変更 ○ラボ 5回開催 ※ラボとは:地域交通の担い手となりうる区民・NPO・事業者等で形成し、実際にルートや時刻表等を決定することで、事業立上げへつなげる協議会 ○アンケート 2回実施 ○福祉有償運送補助制度 11月補助要綱施行 事業者を対象としたセミナー開催(2回) ・地域交通手段の立ち上げ団体なし ・年間利用者(3月末) 2,548人	③	×	・複数の事業者へ説明・協議を重ねた結果、必要性を理解してもらったが、立ち上げまでには至らなかった。 ・さざび一号の周知が十分に行き渡らなかったため、利用者が伸びなかった。	・地域交通手段確立へ向けたノウハウの提供など、立ち上げを目指す事業者へのさらなる支援を進め、地域交通手段の立ち上げを目指す。 ・さざび一号の運行について、広報紙や回覧のほか、地域の老人会等へも広報訪問することで、実際の利用者の声をきくとともに周知を図る。 【26年度運営方針に反映済】	1-(5)-ア 2-(1)-ウ

(※4)具体的取組の目標達成状況

- ①:目標達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ②:目標未達成
 - (i)取組は予定どおり実施
 - (ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ③:撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性

- :有効
- ×:有効でないため見直す
- :中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略4-2:小児・周産期医療の充実]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、小児・周産期医療の充実における目標を達成したことで、アウトカムも順調に推移しているため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題)
		(対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
 ア: 有効であり、継続して推進
 イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
医療資源の有効活用等により地域の小児・周産期医療の充実を図るとともに、必要に応じて病院への良好なアクセスを確保するための検討を進める。 また、地域の小児・周産期医療の充実強化に向けて、府市統合本部の今後の進捗状況を見極めながら、安心・信頼感のおける環境整備に努める。	・地域の小児・周産期医療の充実強化に向けて、住吉市民病院用地に民間病院を早期に誘致する方針を決定し、平成25年12月に小児科・産科を含む病院等を整備する民間事業者予定者を決定した。 ・病院への良好なアクセスを確保するため、住民の意見を踏まえ関係部署と検討・調整し、平成26年4月にアクセスを確保。	—	A	A
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
医療資源の有効活用等により地域の小児・周産期医療の充実を図るとともに、必要に応じて病院への良好なアクセスを確保するための検討を進める。 また、地域の小児・周産期医療の充実強化に向けて、府市統合本部の今後の進捗状況を見極めながら、安心・信頼感のおける環境整備に努める。	地域の小児・周産期医療の充実強化に向けて、民間事業者予定者を決定したことで、アウトカム実現のための要因である安心・信頼感のおける環境整備につながったと考えられ、戦略は順調に進捗していると認識している。			C

(※2) アウトカムの達成状況
 A: 順調
 B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
 a: 順調
 b: 順調でない
 c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組4-2-1:小児・周産期医療の充実】 関係部局と連携して、区民の地域医療体制の充実を図るため、方針を策定する。 平成25年3月の市会等で示された方針に基づき、住吉市民病院用地に小児・周産期医療を安定的かつ継続的に提供できる民間病院等を誘致する。 策定した方針の区民への周知方法について検討する。 必要に応じて、住吉母子医療センター(仮称)へのアクセスの検討を行う。	府市統合本部における今後の議論や府市協議を踏まえ、平成25年度中に方針を策定し目標を設定 同方針を踏まえ、公募により平成25年度中に小児・周産期医療を提供する民間病院等を決定する。 【撤退基準】 府市統合本部における今後の議論を踏まえ、平成25年度中に、撤退基準を設定する。 公募において民間病院等からの提案がない場合、今後の取り	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・公募条件等の方針を市として決定。選定委員会にて募集要項を決定し公募(9月)、事業者予定者を決定(12月) ・区民への周知は、区ホームページ及び区広報紙にて適宜実施。	① (i)	—	・事業者予定者が提案どおりの医療体制等を整え、平成28年度の開設を実現する必要がある。	・事業者予定者の進捗管理を行い、適宜関係局と連携し必要な対応を行う。 【26年度運営方針案に反映】	

(※4) 具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
- ×: 有効でないため見直す
- : 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略4-3:すべての人が豊かに暮らせるまちづくりの推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、地域福祉推進支援事業や人権尊重のまちづくりに関して、概ね目標を達成したことで、アウトカムも順調に推移することが期待されることから、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
ア:有効であり、継続して推進
イ:有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成26年度までに区民モニターアンケートにて、「今までに地域福祉に関するボランティアに参加したことがある」と回答する割合が60%以上	36%	-	B	B
・平成26年度までに区民モニターアンケートにて、「認知症高齢者について正しく理解している」と回答する割合60%以上	未測定 ※認知症講演会参加者アンケート 70%	-	B	
・平成26年度までに「住之江区が一人ひとりの人権が尊重されているまちである」区民の割合50%以上	未測定 ※人権学習会参加者アンケート 68%	-	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
地域活動協議会の設立を支援し、区民を対象とする研修会の開催や、地域内でのネットワークの充実などを通じ、つながりと支え合いの中で、すべての区民が暮らしやすい地域社会づくりを進める。				b

(※2)アウトカムの達成状況
A:順調
B:順調でない

(※3)戦略の進捗状況
a:順調
b:順調でない
c:中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組4-3-1:地域福祉推進支援事業】 支援を必要とする人々を早期発見するため、宅配業者、郵便配達員、新聞配達員、水道・ガス・電気メーター検針員、コンビニ等に協力を依頼し、情報を関係機関へつなげる等の体制を構築する。 企業と連携して、高齢者・障がい者を訪問し、安否確認を行う「こころの宅配便」事業を構築する。 市民向け講演会を開催するなど、認知症に関する正しい知識や理解の普及啓発を行うとともに、認知症の予防や早期発見・早期対応できる仕組みづくりを推進する。	「こころの宅配便」事業の立ち上げ 見守り活動のため、民間企業の協力を取り付ける(2社) 【撤退基準】 「こころの宅配便」事業やライフライン事業者における見守り活動に業者の協力が得られなければ、事業を再構築する。 事業参加者アンケートにて、「認知症の知識が深まった」との回答70% 【撤退基準】 事業参加者アンケートにて、「認知症の知識が深まった」との回答が50%を下回れば、事業手法を再構築する。	【目標達成状況】 ・見守り活動の民間企業の協力 1社 ・こころの宅配便事業の立ち上げ(4月) ・事業参加者アンケート 70% 【取組実績】 ・「こころの宅配便」事業について、民間企業1社と協定締結 ・認知症講演会:1回実施460人の参加 ・多職種連携研修会:1回実施100人の参加 ・認知症支援に携わる各種団体による地域ごとのグループを作り、合同研修会を開催	② (i)	○	・認知症講演会の参加者の多くが高齢者であった。 ・こころの宅配便事業については、民間企業でのビジネス化が進んでおり、協力を得ることが困難。	・PTA組織や学校への働きかけを行っていく。 ・見守り活動に関しては、区事業を再構築したコミュニティビジネスとして対応していく。 【26年度運営方針案に反映済】	2-(4)
【具体的取組4-3-2:人権尊重のまちづくり】 子ども、高齢者、外国籍住民、障がいのある人、女性等、さまざまな人権問題について、他の団体と連携して、効果的な啓発、交流の場づくり、地域の中の見守り強化、虐待防止の強化を推進する。 住之江まつり・成人の日記念の集いでの啓発活動(各1回) 人権学習会の開催(11回) 機関紙「あゆみ」の発行(年1回)	各事業の参加者アンケートにより、人権課題への認識が深まったという肯定的な意見や、満足度が80% 【撤退基準】 各事業の参加者アンケートにより、人権課題への認識が深まったという肯定的な意見や、満足度が60%を下回る場合は事業を再構築する。	【目標達成状況】 87% 【取組実績】 ・人権学習会12回 ・人権の花運動、人権パネル展示、住之江まつりでの啓発活動、成人式記念冊子への人権啓発記事掲載、機関紙あゆみの発行	① (i)	○	・多くの区民が人権問題を考える機会を提供する必要がある。	・より身近な場所で人権学習会を開催することにより、区民が参加しやすい環境を整える。	

(※4)具体的取組の目標達成状況

- ①:目標達成
(i)取組は予定どおり実施
(ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ②:目標未達成
(i)取組は予定どおり実施
(ii)取組を予定どおり実施しなかった
- ③:撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性

- :有効
×:有効でないため見直す
-:中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略4-4:「虐待防止あったかネット」プロジェクトの推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、虐待防止サポーターの養成目標人数は下回ったものの、取組の推進により、アウトカムは達成できているため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題)
		(対応方向)

(※1)戦略のアウトカムに対する有効性
ア:有効であり、継続して推進
イ:有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成26年度 虐待死ゼロ	虐待死 ゼロ	虐待死 ゼロ	A	A
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
子育て支援室や地域包括支援センターを周知するとともに、区民の方を対象に「虐待防止サポーター(仮称)」を養成し、児童・高齢者・障がい者虐待防止に力を発揮する事ができる仕組みを構築する。				b

(※2)アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3)戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組4-4-1: 区をあげた虐待防止の取組み推進】 【具体的取組1-5-3: 再掲】 虐待の早期発見・防止のため、区民の参加協力を募り、虐待に対する正確な知識を持つ「虐待防止サポーター(仮称)」を地域で養成する。 「虐待防止サポーター(仮称)」養成講座開催(14地域毎で年間5回) 「虐待防止サポーター(仮称)」を養成するリーダー(50人)、コーディネーター(14人)を養成 区内14地域に「虐待防止サポーター(仮称)」の活動拠点を設置しコーディネーター(連絡調整役)の配置 児童虐待については、「虐待防止サポーター(仮称)」からの事案も含めて、「要保護児童対策地域協議会」で総合的な把握・進捗管理を行う。 「要保護児童対策地域協議会」の実務者会議を毎月1回定例開催・個別ケース検討会議を随時開催	「虐待防止サポーター(仮称)」14地域×各100名=計1,400名養成 【撤退基準】 サポーター数が目標の50%に届かなければ、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・虐待防止サポーター 943名養成 【取組実績】 ・虐待防止サポーター養成講座46回開催 ・リーダー養成講座4回開催、75名養成 ・コーディネーター14名養成 ・要保護児童対策協議会実務者会議14回(2回は全件振り返り) ・要保護児童対策協議会個別ケース会議 60回	② (i)	○	・虐待防止サポーターについて、開始時期や地域との調整が難航し、目標数値を下回った。	・地域の区民のみならず、ライフライン事業者や企業・NPOなどにも積極的に声をかけ、虐待防止サポーター数の増を図り、区をあげた虐待防止の取組みにつなげていく。 【26年度運営方針案に反映】	1-(2)-イ 2-(1)-ウ 2-(3)-イ

(※4)具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5)具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
- ×: 有効でないため見直す
- ー: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略4-5:健康づくりと生活習慣病]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、すこやか住之江推進事業における目標を達成したことで、各種参加者アンケート結果も概ね良好となっており、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題)
		(対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに、区民モニターアンケートにより「ウォーキングなど健康づくりの習慣がある」区民の割合40%	未測定 ※ウォーキング会参加者アンケートにおける同様の質問に対しては41%	—	A	A
・平成27年度までに、乳幼児健診や各種健康づくり事業参加者アンケートにて、「栄養バランス等に配慮した食生活を送っている」区民の割合60%以上	未測定 ※食育イベント参加者アンケートにおける同様の質問に対しては55%	—	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
健康の保持・増進及び疾病予防に向けた活動の一層の充実と、食育や運動の機会を増やし、一人ひとりの主体的な取り組みや地域特性に応じた健康づくりの環境整備を図る。				a

(※2) アウトカムの達成状況

A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況

a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組4-5-1:すこやか住之江推進事業の推進】 健康について考える機会を提供するため、健康展を1回開催する。 ウォーキング会を年1回開催するとともに、地域にてウォーキング活動ができるよう体制づくり等を支援する。 乳幼児健診や各種健康づくり事業時に、運動・食育・子育てに関する情報提供を行う。(年間48回) 食育に関する講座やクッキング教室等の開催(年13回) 乳幼児健診や各種健康づくり事業時に区民アンケートを実施し、今後の方針・方策を検討する。	健康展にて「地域でのウォーキング会への参加を希望する」と回答する割合 30% 【撤退基準】 地域のウォーキング活動の体制づくりが5地域以下であれば、事業を再構築する。 乳幼児健診や各種健康づくり事業参加者アンケートにて、「食育に関心を持っている」と回答する割合 50% 【撤退基準】 乳幼児健診や各種健康づくり事業参加者アンケートにて、「食育に関心を持っている」と回答する割合が30%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・健康展にて「地域でのウォーキング会への参加を希望する」と回答する割合 64% ・乳幼児健診や各種健康づくり事業参加者アンケート 56% 【取組実績】 ・健康展1回開催 ・ウォーキング会1回開催(3月) ・ウォーキングコース・マップ6地域で作成 ・情報提供 48回 ・食育講座・クッキング教室の開催 14回	① (i)	○	・地域で継続してウォーキングに取り組めるようウォーキングマップを活用した取組みが必要である。	・各地域の地域健康講座でウォーキング実践を行う。 【26年度運営方針案に反映】	1-(2)-イ

(※4) 具体的取組の目標達成状況

①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

○: 有効
×: 有効でないため見直す
—: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略4-6: ボランティア活動の推進による区民のまちづくりへの参加促進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、花と緑のまちづくり事業参加者も順調に増えており、アウトカムも概ね順調に推移しているため、戦略はアウトカムに対して有効である	ア	(課題)
		(対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成25年度末までに、花と緑のまちづくりボランティアへの参加者アンケートにて、「活動に満足している」回答60% ・平成27年度までに、区民モニターアンケートにて、「公園を週1回以上利用する人」の割合45%、「身近な緑の満足度」50%	87.5%	-	A	A
	「公園を週1回以上利用する人」31.1% 「身近な緑の満足度」61.0%	-	A	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
地域コミュニティに疎遠な住民が、花と緑のまちづくりに参画することで、コミュニティ形成の促進や世代を超えた交流、生きがい・健康づくりを強化することで、四季の移ろいを感じるうらおいのあるまちなみを創出する。				a

(※2) アウトカムの達成状況

A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況

a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組4-6-1: 花と緑のまちづくり】 区民ボランティアが花苗を育て、区内の公共施設等を花と緑で彩るための環境づくりを行う。 若い世代を視野に入れた、花と緑のまちづくりにつながるミニ講習会を開催するなど、新たな担い手づくりを行う。	花と緑のまちづくり事業参加者(ボランティア・講習会等参加者)の増員(平成24年度比5%増) 【撤退基準】 花と緑のまちづくり事業への参加者が、成24年度に比べ半減すれば事業を再構築する。	【目標達成状況】 花と緑のまちづくり事業参加者(ボランティア・講習会等参加者)平成24年度比 6%増 【取組実績】 ・1月末までに、講習会を4回実施。3月末までに、講習会を1回開催予定	① (i)	○	・若い世代の参加が比較的少ない。	・若い世代が参加しやすい環境(場所・時間など)づくり	1-(2)-イ

(※4) 具体的取組の目標達成状況

①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

○: 有効
×: 有効でないため見直す
-: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略4-7:南港・咲洲地域の将来像「咲洲リバイタルプラン(再生計画)」の検討推進]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、咲洲リバイタルプラン基本方針を策定し、取組は順調に推移している。今後、「咲洲リバイタルプラン」を策定し、取組が進められていくことにより、アウトカムの達成が見込まれるため、戦略はアウトカムに対し有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成27年度までに「南港・咲洲地域が活性化してきた」と回答する区民の割合50%	・未測定 ※平成26年度より計測	-	B	B
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
南港・咲洲地域の将来像について、咲洲コスモスクエア地区の成長戦略拠点特区として取り組みとも連携しながら、南港・咲洲地域の活性化に向け関係各部署がひとつのテーブルで検討し、「咲洲リバイタルプラン」を策定し、取り組む。				a

(※2) アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組4-7-1:南港・咲洲地域の将来像についての取組み体制づくり】 関係各部署がひとつのテーブルで検討し、「咲洲リバイタルプラン(骨子)」(案)を作成する。 「咲洲リバイタルプラン(骨子)」(案)について、区民の意見募集を行う。	「部局を超えた協力・連携がとれている事業である」と回答する実務者の割合 80% 【撤退基準】 「部局を超えた協力・連携がとれている事業である」と回答する実務者の割合が50%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 86.7% 【取組実績】 ・検討会等を計6回開催し、担当者会議等を適宜開催 ・住民との意見交換を計3回実施 ・3月末に大きな方向性を基本方針として整理	① (i)	○	・平成26年度に骨子案の具体化を検討するうえで、地域住民の意見を反映する必要がある。	・住民との意見交換を適宜開催し住民の意見と検討会での議論内容を双方で反映させるなど効果的な連携を図る。 【26年度運営方針案に反映】	2-(1)-ア 2-(1)-ウ

(※4) 具体的取組の目標達成状況
①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性
○: 有効
×: 有効でないため見直す
-: 中間アウトカム未設定(未測定)

5 重点的に取り組む主な経営課題

様式5

【経営課題5: 自律した自治体型の区政運営】

○経営課題の評価結果の総括

内容	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
区長が自らの権限と責任で、区民ニーズや意見を集約し、各地域の事情や特性に即して、施策や事業の改善および新たな展開につなげていく区政運営を行う。 また、人材の発掘・育成、地域活動の総合的な支援を行う「かなめ」としての役割を果たす区役所をつくる。 こうした区政運営に欠かせない職員づくり、とりわけ若い職員の自主性、チャレンジ精神を伸ばし、前向きな職場風土を定着させる。	区施策の方向性決定の仕組みや地域情報の発信において、改善を進める必要がある項目もあるものの、外部講師による接遇研修などの効果により、区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果で星1つを獲得するなど、人材育成の取組は一定進んでいる。

[戦略5-1: 区の施策の方向性を決定する仕組みづくり]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、各取組については目標に至らなかったが、会議の運営手法やニーズ把握の手法について各取組を進めていくことにより、アウトカムの実現に寄与すると想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
 ア: 有効であり、継続して推進
 イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成25年度までに、区政会議参加者から「区政に参画するために有意義な場である」評価80%	80%	-	A	B
・平成26年度までに、多様な意見やニーズが区役所に届いていると感じている区民の割合80%	9%	12%	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
区政全般の課題について、区民誰もが参加できるフォーラム(区民集会)、区民モニターアンケート、各種事業アンケートなどで、区民ニーズや意見を聴取する。 区政会議を開催し、委員から評価や意見をいただくとともに、区民の意見・ニーズを施策や事業に反映させる。				b

(※2) アウトカムの達成状況
 A: 順調
 B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
 a: 順調
 b: 順調でない
 c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組5-1-1: 区政会議の開催】 様々な区の課題に応じて区民の方の意見を聞き取り、施策展開の方向性を検討・評価する場として、区政会議を開催する。 また、区の重要な課題に対し、専門家による調査・分析を行い、区政会議の議論に活かす。	区政会議(部会開催含)開催(20回) 【撤退基準】 区政会議の委員募集の際、応募者がいなければ事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・区政会議開催13回(全体会3回・部会計10回)	② (i)	-	・現委員となって初年度ということもあり、区政全般について深い議論が行えなかった。	・平成25年度設置の区政アドバイザーを専門家として区政会議へ参加を依頼する。その意見やアドバイスを区政会議の議論に活かす。 【26年度運営方針案に反映】	2-(2)-ア 2-(2)-イ 3-(10)-ア
【具体的取組5-1-2: 「声なき声」に耳を澄ます取り組み】 区役所主催のすべての事業・イベント会場等でアンケートを実施する。 区民モニターに対し、課題ごとのアンケートを実施する。(4回) 区民モニターの意見交換会を開催する。	区民モニターアンケートが「区民ニーズを施策に反映させる有効な手段である」との回答70% 【撤退基準】 区民モニター応募数が300人以下であれば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・57.4% 【取組実績】 ・区民モニターアンケート4回実施 ・区民モニター応募数 303人	② (i)	○	・現在は区民モニターのみならず、さまざまな手法によるニーズ把握を行う必要がある。	・「すみのえ大好き隊」による街頭アンケート実施など、意見やニーズを聴き取る手法を検討する。 【26年度運営方針案に反映】	2-(2)-ア 3-(10)-ア

(※4) 具体的取組の目標達成状況
 ①: 目標達成
 (i) 取組は予定どおり実施
 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
 ②: 目標未達成
 (i) 取組は予定どおり実施
 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
 ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性
 ○: 有効
 ×: 有効でないため見直す
 -: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略5-2: 区民から信頼される利便性の高い区役所づくり]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、窓口サービスの改善・向上における目標達成はできなかったものの、アウトカムの達成状況は順調に推移しているため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
平成26年度までに、窓口対応が以前と比べて「良くなった」「どちらかといえば良くなった」と回答する区民の割合80%	65.9%	53.1%	A	A
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
平成26年度着手予定の区役所耐震工事や窓口業務の民間委託の実施に向け、待合空間や窓口レイアウトの変更を検討する。 また、職員の意識向上を図り、前向きな職場風土づくりを行う。				b

(※2) アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組5-2-1: 窓口サービスの改善・向上】 毎朝始業時に一斉あいさつを実行することにより、職員の窓口対応や仕事に対する意識の向上を図る。 窓口改善にむけた窓口サービス検討委員会を立ち上げ、月1回開催し、課題の洗い出しを行う。また、可能な取組みから順次実施する 26年度着手予定の耐震工事および証明書発行業務等民間委託の実施に向けた待合空間・窓口レイアウト変更および届出窓口と証明発行窓口の分離を検討する。	職員アンケートにて、「仕事にやりがいを感じる」と回答する割合が80% 【撤退基準】 職員の意識調査にて、一斉あいさつなどの取組みを通じて「仕事にやりがいを感じる」と回答する割合が60%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 70.6% 【取組実績】 ・毎朝始業時に一斉あいさつを実行 ・窓口サービス検討委員会を6回開催 ・平成26年度着手予定の待合空間・窓口レイアウト変更案を調整した。	② (i)	○	・職員の窓口対応や仕事に対する意識の向上に向け継続した取組みが必要。	・窓口サービス検討委員会で引き続き窓口改善に向けた課題を洗い出し、可能な取組から順次実施するほか、外部講師などによる接遇研修により、窓口サービスの向上を図る。 【26年度運営方針案に反映】	2-(5)

(※4) 具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
(i) 取組は予定どおり実施
(ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
×: 有効でないため見直す
-: 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略5-3: 地域情報の発信機能の強化]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、情報発信強化に努めたが、アウトカムの達成には至らなかった。しかしながら、年度途中からの区広報紙全戸配布の実施していることや広報施策の取組レベルでの改善により、来年度以降におけるアウトカムの達成に寄与すると見込まれるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成25年度までに区民モニターアンケート及び事業・イベント参加者アンケートにて、「会議や地域行事の情報を区からの情報発信によって入手した」割合75%以上、「情報入手が容易であった」割合70%以上	会議や地域行事の情報を区からの情報発信によって入手した」65.4% 「情報入手が容易であった」41.6%	—	B	B
・平成26年度までに区政モニターアンケートにおいて、「区長の顔や名前を知っている」と答えた区民の割合 60%以上	43.5%	—	B	
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
広く手に取って読んでもらえるよう、区広報紙「さざんか」の設置場所を増やすとともに、分かりやすい紙面づくりを行い掲載内容を充実させ、効果的な情報発信を行うことで、区民の方の地域への関心を高める。 広報紙以外に、HP(携帯サイト含む)・メールマガジン・Twitterなど様々な手法を用い、幅広い方を対象に迅速に地域情報を発信し、イベントやまちづくり活動等への参加を促す。 また、広報戦略の推進に併せて、区長の認知度向上の取組みも進める。				b

(※2) アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組5-3-1: 広報の充実】 広報紙の配付部数増を図るため、新たな設置場所を開拓する。 区民情報コーナーを活用し、パネル展等を行うなど、積極的に地域情報を発信していく。 広報紙作成にあたり、コミュニティビジネス化や区民の方と協働しての発行等広報紙の発行・配付方法について検討する。 HPのレイアウト変更を行い、より分かりやすく、目当てのページにたどり着けるようにする。 区長の区民に対する認知度を高めるための取組みを実施する。	広報紙の新規配布場所を開拓(2ヶ所) HPの総アクセス数増(月平均100,000件) 広報紙全戸配布の実施 区政モニターアンケートにおいて、「区長の顔や名前を知っている」と答えた区民の割合 50%以上【撤退基準】 ・広報紙配布部数・HPアクセス数が前年度を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・区内市営交通全駅の駅長室等に広報紙を新規配布(区内全13駅) ・HP総アクセス数(4~1月末) 平均108,495件 ・広報紙全戸配布の実施(平成25年10月号~) 「区長の顔や名前を知っている」と答えた区民の割合 43.5% 【取組実績】 ・広報紙の新たな設置場所として区内市営交通駅9箇所を追加 ・区民情報コーナーで新たに写真展(すみのえ はたらく人のポートレート展)を開催 ・区HPのリニューアルを8月に実施 ・区広報紙において、区長の写真入り記事「区長通信」を毎月掲載 ・区長の日々の行動等を日記風に綴った「区長日記」を区HPに随時掲載 ・区長写真入りポスターを毎月作成し、区内市政広報板に掲示	② (i)	○	・広報紙の全戸配布を実現したが、今後はいかに手に取って読んでもらえるかという点が課題である。	・地域担当制度等を活用し、地域に根ざした記事を拾いあげを行う仕組み作りに取り組む。 【26年度運営方針案に反映】	1-(1) 2-(1)-ウ 2-(3)-ア 3-(10)-イ
【具体的取組5-3-2: 多様な広報媒体の活用】 手軽にかつ迅速な情報を行うため、携帯サイトやTwitter、メールマガジンを用いて、区のみならず市の情報を発信していく。	メールマガジン登録者数増(1,000件) Twitterフォロワー数増(2,000件) 【撤退基準】 Twitterフォロワー数・メールマガジン登録者数が前年度を下回れば事業再構築。	【目標達成状況】 ・メールマガジン登録者数(3月末時点) 950件 ・Twitterフォロワー数(3月末時点) 1,211件 【取組実績】 ・携帯サイト、Twitterにより区政情報を随時発信。メールマガジンによる区政情報を月2回発信。区情報と共に全市のイベント情報を積極的に掲載。 ・平成26年3月の産経新聞市内版においてメルマガ登録啓発を実施	② (i)	○	・メールマガジン登録者数、Twitterフォロワー数は前年度を上回ったものの、さらなる上積みが必要。	・Twitterフォロワー数の増加に向け、広報紙、HPと連携した記事を投稿。各種イベントチラシにメールマガジン、TwitterのPR欄を設ける。	1-(1) 2-(3)-ア 3-(10)-イ

(※4) 具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
- ×: 有効でないため見直す
- : 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略5-4:改革を担う職員づくり]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
戦略の進捗により、職員アンケートによる目標数値は下回ったものの、各課横断的なプロジェクトチームの立ち上げや職員研修を実施することで、アウトカムの実現に寄与することが想定されるため、戦略はアウトカムに対して有効である。	ア	(課題) (対応方向)

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・平成26年度までに「仕事にやりがいを感じている」「ある程度感じている」職員の割合90%以上	70.6%	—	B	B
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
市政改革室や人事室の取り組みと連携しながら、真の住民自治の確立に向けた改革を進めていくため、職員が前向きになり、主体性・チャレンジ意識を持つとともに、職員の気づきを促進する取組を進める。 また、ファシリテーション能力やコーディネート力など市民満足度を高める能力の向上に取り組む、市民から信頼される自律的な職員と組織風土づくりを進める。				b

(※2) アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組5-4-1:職員の意識改革】 職員からいただいた意見や提案に基づいて、プロジェクトチーム等を立ち上げ、取組を開始する。 区基本方針に基づき、外部講師による職員研修を実施する。 毎朝始業時に一斉あいさつを実行することにより、職員の窓口対応や仕事に対する意識の向上を図る。	職員アンケートにより「仕事にやりがいを感じている」「ある程度感じている」職員の割合80%以上 【撤退基準】 上記の割合が50%を下回れば、事業を再構築する。	【目標達成状況】 ・70.6% 【取組実績】 ・めざせ三ツ星委員会、ワーキンググループの立ち上げ ・外部講師による事務室内視察および接遇研修 ・一斉挨拶または朝礼にて情報共有	② (i)	○	・既存の体制では、区役所全体に関わる事業を横断的に実施することが困難。	・既存の体制を見直し、各課横断的なプロジェクトチームを立ち上げる。 【26年度運営方針案に反映】	2-(5) 3-(9)-ア 3-(9)-イ 3-(10)-オ

(※4) 具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
- ×: 有効でないため見直す
- : 中間アウトカム未設定(未測定)

[戦略5-5:行政区のブロック化]

(1) 戦略の有効性評価

戦略のアウトカムに対する有効性	評価結果 (※1)	課題と今後の対応方向 ※評価結果が「イ」の場合のみ、記載
ブロック単位での行政運営の実現には区割り等の決定が不可欠であるが、大阪府・大阪市特別区設置協議会において議論されており、区割り等が決定されていないため、アウトカムの達成に向けて有効な戦略を立てることができない。	イ	(課題) ・ブロック単位での行政運営の実現に向けて有効な戦略を立てるために必要な区割り等が未確定である。 (対応方向) ・大阪府・大阪市特別区設置協議会における区割り等の決定に係る議論の進捗に応じて、対応を検討する。

(※1) 戦略のアウトカムに対する有効性
ア: 有効であり、継続して推進
イ: 有効でないため、戦略を見直す

(2) 戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況

アウトカム	アウトカムの達成状況	前年度数値	評価結果(※2)	
			個別	全体
・ブロック単位での行政運営により、一層効率的な事務執行を進める。	・ブロック単位での行政運営の実現には区割り等の決定が必要であるが、大阪府・大阪市特別区設置協議会において議論されているため、執行は困難	-	B	B
戦略	戦略の進捗状況 ※評価結果が「C」の場合のみ、記載			評価結果 (※3)
大都市制度における基礎自治体への移行に向けて、現在の行政区を5~7の単位にブロック化を進める。				b

(※2) アウトカムの達成状況
A: 順調
B: 順調でない

(※3) 戦略の進捗状況
a: 順調
b: 順調でない
c: 中間アウトカム未設定(未測定)

(3) 具体的取組の目標達成状況と戦略に対する有効性

取組内容	業績目標	目標達成状況・取組実績	評価結果 (※4)	戦略に対する有効性 (※5)	課題	改善策	市政改革プランとの関連
【具体的取組5-5-1: 行政のブロック化】 行政区のブロック割り(案)の区民への説明・意見聴取を行う。	ブロック割り(案)の区民説明会開催(1回以上) 【撤退基準】 平成25年度完了予定	【目標達成状況】 ・取組実績どおり 【取組実績】 ・行政区のブロックの区割り案を基にした府市再編の区割り試案については、以下のような取り組みを実施した。「大阪府・大阪市特別区設置協議会だより」(以下「協議会だより」という。)の発行に際して、できるだけ多くの区民に議論の内容を周知するため、現時点で、区広報紙の点字版を購読している全ての市民に対して、協議会だよりを直接発送した。また、区役所窓口において広く市民に対して協議会だよりを配布するなどの周知活動を行った。	② (ii)	-	-	-	2-(1)-イ 2-(7)

(※4) 具体的取組の目標達成状況

- ①: 目標達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ②: 目標未達成
 - (i) 取組は予定どおり実施
 - (ii) 取組を予定どおり実施しなかった
- ③: 撤退基準未達成

(※5) 具体的取組の戦略に対する有効性

- : 有効
- ×: 有効でないため見直す
- : 中間アウトカム未設定(未測定)